


地域に開かれた障害 『協育』で即戦力を

のある生徒の職業学校 育てる！

伝ふたいコト 募集中!

本企画の主人公は読者の皆さん。普段の業務を通して感じているコト、想いなどを大募集。QRコードから自由に寄稿いただけます。



専用フォーム

寄稿者＝市立札幌みなみの杜高等支援学校 教諭
中島涼香

生徒と企業が共に育つ

北海道札幌市にあるみなみの杜高等支援学校は、知的障害のある高校生に職業教育を行う学校です。開校8年目を迎えたこの学校の大きな特徴は、「地域と協働して専門的な教育を行う」ことにあります。多くの地域企業や地域住民の方に支えられ、地域と共にある学校を実現しています。約8割の生徒が企業などに雇用され、開校以来、社会で活躍する生徒を多く輩出しています。

私は、開校以来クリーンアップコースに携わり、生徒と共に清掃を学んできました。こだわりのある仕事をする清掃従事者に魅力を感じ、ビルメンヒューマンフェア&クリーンEXPO 2023にも赴きました。毎月、生徒たちと共に月刊ビルクリーニング誌から最新の現場について学ぶことを楽しみにしています。

そんな当校の学びの基盤を支えるのが、地域企業の協力による「協働育成」いわゆる「協育」と、全国的に見て回数も日数も多いインターンシップ実習での生徒との「マッチング」です。当校では、地域に開かれたこの環境にこれからの障害者雇用や人材育成のヒントがあると確信しています。

前述した地域や企業との学びを

協育アドバイザー（技術指導や講話）



生徒

- 「プロってかっこいい！」
- 肯定的な職業観・憧れ



企業

- 後進育成、企業・業界イメージ
- 社員教育等（語ることで学びが深まる）

地域協働（共に働く）

- 例) 生徒の参加可能な清掃現場を学校に連絡、企業・生徒・引率教員共に働く
- 例) 社会貢献と同時に、フランチャイズが新しい技術の共有研修の場として学校で生徒と共に作業する



生徒

- 「こんなチームになりたい」
- チーム品質、誇り、所属愛



企業

- 業務の増員、企業イメージ、企業内での心のバリアフリー、フランチャイズの研修の機会等

「協育」と呼称して、積極的に学習のなかに位置付けています。「協育」には、学校が企業に「生徒を育てていただく」という意味と、地域企業が「生徒との出会いによって育つ」という意味が込められています。当然ながら、学校は一方的に育てていただくという関係ではなく、お互いにとってメリットのある“win-win”の関係を心がけています。どのように生徒と企業が共に育つ関係を築いているのか、その一部を紹介していきます。

成長を止めないために

当校のクリーンアップコースの学びは、インターンシップ実習の受け入れ、アドバイザー派遣、地域実習先の提供など、多くの企業に支えら

れています。その一つずつの出会いには、学校教員による「開拓」とよばれる地道なアプローチから始まっています。清掃業界を知らない学校にとって、学びにマッチしたアドバイザーや生徒にマッチした実習先を探していくのは、とても大変なことです。しかし、本校は（一社）北海道ビルメンテナンス協会や（一社）北海道ガラス外装クリーニング協会と連携することで、より良い「協育」を実現させることに成功しています。

また、就労後も自分を高め続ける職業人の育成を大切にしており、職業専門性を自ら高めていくため、障害者の職業技能を競う「障害者技能競技大会（アビリンピック）」への出場や、ビルクリーニング技能士の資格試験に挑戦する機会をつくり、生徒自らが価値を感じて取り組んでい



第43回全国アビリンピック大会「ビルクリーニング種目」金賞の第2期卒業生・伊藤直明さん



株式会社ダスキンとの地域協働による抗菌加工サービス



五十嵐美装株式会社による技術指導



ホクビサービス株式会社による技術指導

けるよう支援しています。

こうした活動が実を結んだのが、第2期卒業生である伊藤直明さんの「第43回全国アビリンピック大会」（会期＝2023年11月17日～19日、場所＝愛知県国際展示場）の「ビルクリーニング種目」での金賞受賞です。在校中から挑戦を続け、全国大会出場までは3回かかりました。全国大会出場が決まってからは、「優勝しか見えていなかった」と本人も語っており、「成長を止めたくない、自信のある清掃で1番になりたい。誰が見ても美しい清掃をしたい」と熱い想いを持った挑戦でした。

在校中の協育アドバイザーの指導、就労先の応援と指導、そして彼の実力と努力。優勝後の言葉は、「皆さんに感謝しかありません」と、とても彼らしい言葉で締めくくっていたのが印象的でした。

次の目標は、「アビリンピック世界大会への出場」「ビルクリーニング技

能士の国家資格取得」「いつか母校に協育アドバイザーとして帰ってくる」と、笑顔で語ってくれており、その背中を追いかけてたくさんの生徒が清掃の道に進んでいます。

生徒たちの想いを伝えたい

どの会社がいいとか悪いとかではなく、本人とマッチしていることが大切です。そのためには、インターンシップ実習の機会がとても重要です。これからもたくさんの機会をいただくと、生徒を支援する立場からとてもありがたいと思います。また、そのなかで、本人の得意を活かした仕事の切り出しを行うなど、一緒に積み重ねていけると、より良い就労につながると考えています。

そして何より生徒たちが「お役に立ちたい」という想いを持っていることを知っていただきたいです。会社の、社会の、お役に立てていると

感じられること、「ありがとう」が届くことはやりがいにもつながります。「すごいね」は成長につながります。生徒たちには、働きやすい職場環境を自らつくっていくために、まずは自分から感謝と尊敬の意を伝えることを教えています。

さまざまな人が活躍できる世の中の実現を目指し、これからも支援を続けていきます。共に歩む一歩を踏み出していただくと嬉しいです。

市立札幌みなみの杜高等支援学校
札幌市南区真駒内上町4丁目7-1
TEL：011-596-0451

